

## 第2期中期目標・中期計画・平成29年度計画〔平成28年4月1日～平成33年3月31日〕

中期目標	目標を達成するための中期計画(措置)	平成29年度計画
<b>I 大学の目標</b>		
<p>建学の理念「情報化社会の新しい大学と学問の創造」に基づき、本学が果たすべき機能として、1.情報を核とする高度な専門職業人養成機能、2.国際性と豊かな人間性を育む教養教育機能、3.情報に関わる通信教育の拠点機能、4.地域貢献・産学連携機能を更に強化するとともに、本学の「教育目的」について引き続きこれらの周知を図り、今後も本学に対する社会からの要請を真摯に受け止め、必要な場合には更なる見直しを進める。また、各学部・学科、大学院研究科、通信教育部においても、共通教育、専門教育の双方について、教育目的を明確化し、その周知に努める。特に今期においては、<b>Quality First</b>をミッションとして教育の質を向上させ、主体性を持った高度ITプロフェSSIONALの育成を目指す。</p> <p>中期目標の期間は、平成28年4月1日から平成33年3月31日までの5年間とする。</p>		
<p><b>(1) 理念、使命、目的、果たすべき機能の明確化</b></p> <p>1 本学の「使命・目標」、「教育目的」が世界的に大きく変動しつつある社会からの要請に応えるものとなっているかを絶えず検討し、必要な場合には見直しを進める。</p> <p>2 各学部・学科・通信教育部の共通教育、専門教育及び大学院研究科の教育目的等を明確にし、必要に応じて見直しを行う。</p>	<p>1-1 外部有識者、同窓生、保護者、企業等からの意見や評価を基に、本学に求められている教育研究と人材育成について検討する。</p> <p>2-1 大学全体の理念、使命・目標、教育目的との整合性を踏まえ、またそれぞれに対する社会からの要請を反映して、必要に応じて、教育目的の見直しを行う。</p>	<p>1-1-1 外部有識者(カリキュラム・アドバイザリーボード会議)、同窓生、保護者、企業等からの意見や評価を基に、時代のニーズを的確に把握し、教育研究に反映させる。</p> <p>1-1-2 外部有識者との会議や懇談会を通して、産業界や地域社会のニーズを把握し、身に付けるべき能力を明確にする。</p> <p>1-1-3 カリキュラム・アドバイザリーボード会議を含む外部有識者会議の意見を内外に公表するとともに、意見の大学運営への反映状況について点検・公表する。</p> <p>2-1-1 各学部・学科の検討状況を踏まえ、見直しを行う。</p> <p><b>【経営情報学部先端経営学科】</b> 2-1-2 卒業試験や卒業時に修得すべき内容等の検討により、学士の質を保証するための具体策の見直しを検討する。</p> <p><b>【経営情報学部システム情報学科】</b> 2-1-3 平成28年度のカリキュラム・アドバイザリーボード会議で指摘された点(特に、卒業論文等で実社会の課題をテーマにする。システム情報学科でもビジネスについてきちんと教育すべき、プロジェクトトライアルの目的を明確にすべき等)について、どのような方策があるかを検討する。平成29年度のカリキュラム・アドバイザリーボード会議等の提言について、具体策を検討する。</p> <p><b>【医療情報学部医療情報学科】</b> 2-1-4 平成29年度より再編された2専攻による教育を開始し、社会が求める人材を育成するための講義内容、実習内容の検討を行う。</p> <p><b>【情報メディア学部情報メディア学科】</b> 2-1-5 平成29年度に再編した学部・学科の教育目的と社会からの要請の検討をカリキュラム・アドバイザリーボード会議で行う。</p> <p>2-1-6 新たに策定した「3つの方針(ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシー)」を公表する。 平成30年4月から第3サイクルとなる大学機関別認証評価は、内部質保証を重視した評価となるため、3つのポリシーを起点とする内部質保証システム(PDCAサイクル)を各学科単位で確立し、教育に関する内部質保証を確立していく。</p>
<p><b>(2) 理念、使命、目的、果たすべき機能の周知</b></p> <p>1 学生や教職員への周知徹底を図るとともに、広く学外にも周知する。</p>	<p>1-1 大学案内、学内報「ななかまど」、学生便覧、パンフレット等の各種刊行物、ホームページ、大学ポータル、各種行事における理事長や学長の挨拶、名刺への記載等、多様な機会を通して周知を図る。</p>	<p>1-1-1 現在実施している周知方法、内容について点検し、必要に応じて見直しを行い、改善点を検討する。</p>

中期目標	目標を達成するための中期計画(措置)	平成29年度計画
<p><b>(3) HIU Vision 2020の戦略の共有</b></p> <p>1 大学全体の組織力を活かす戦略的経営を図るため、HIU Vision 2020の戦略を共有し、実現を図る。</p>	<p>1-1 HIU Vision 2020の戦略の共有を図るため、多様な機会を通して周知を行う。</p> <p>1-2 HIU Vision 2020の戦略を定期的に確認し、必要があれば見直しを行う。</p> <p>1-3 HIU Vision 2020の戦略の共有及び評価を改善につなぐためのマネジメントを実現するツールとしてバランスト・スコアカード(BSC)の導入について検討・実施する。</p>	<p>1-1-2 同窓会と連携した事業の実施について検討する。</p> <p>1-1-1 HIU Vision 2020の戦略の周知方法について点検し、必要に応じて見直しを行い、改善点を検討する。</p> <p>1-1-2 教育研究、社会貢献の実績に基づき、本学の誇る強みを共有する。</p> <p>1-2-1 継続してHIU Vision 2020の戦略の進捗状況を確認するとともに、必要があれば見直しを行う。</p> <p>1-3-1 バランスト・スコアカード(BSC)の導入に当たっての手順について検討し、策定する。</p>
<p><b>Ⅱ 教育に関する目標</b></p> <p><b>Ⅱ-1 学士課程教育・大学院教育に関する目標</b></p>		
<p><b>(1) 教育研究組織に関する目標</b></p> <p>◎学士課程</p> <p>1 適正な学部、学科、専攻、コースがあり、それぞれの教育研究の目的の実現に相応しい構成となっているか定期的に点検し、必要に応じて見直しを行う。</p>	<p>1-1 適正な学部、学科、専攻、コースの構成と定員がそれぞれの教育研究の目的の実現に相応しいかどうかを定期的に確認する。</p> <p>1-2 現行制度、システムの維持・改善を図る。</p> <p>1-3 学部・学科の入学定員と入学者数のバランスを調整する。</p> <p>1-4 医療情報学部医療情報学科に臨床工学分野を設置する。</p>	<p>1-1-1 平成29年度の学部・学科の改組改編後の学生の入学状況から、改組改編及び設定した入学定員が適正であったかを検証する。</p> <p><b>【医療情報学部】</b></p> <p>1-1-2 医療情報学部の活動について、平成29年度から新たに2専攻制度に移行した等、引き続きホームページ等で公表する。</p> <p>1-2-1 医療情報学部の平成29年度の学生の入学状況から、改組改編(専攻及び入学定員設定)及び設定した入学定員が適正であったかを検証する。</p> <p>1-2-2 情報メディア学部情報メディア学科の平成29年度の学生の入学状況から、専攻別入学定員の廃止及び設定した学科としての入学定員が適正であったかを検証する。</p> <p>1-2-3 平成29年4月の経営情報学部、医療情報学部、情報メディア学部の専攻、コースの改編に向けて進めてきた準備が、計画どおり実行されているかを点検し、必要に応じて見直し、改善する。</p> <p><b>【医療情報学部医療情報学科メディカルヘルスケア専攻、臨床工学専攻】</b></p> <p>1-2-4 平成29年度からメディカルヘルスケア専攻と臨床工学専攻の2専攻でカリキュラム編成を実施するが、社会的なニーズを適確にとらえ、専攻名の変更も含め柔軟に対応する。学生の募集については、出前事業を積極的に実施し、本学部の教育内容について理解を深め、改善に努める。臨床工学専攻については、北海道臨床工学技師会との連携を強化し、病院実習等の円滑な実施体制を確立する。</p> <p>1-3-1 平成29年4月の学部・学科の改組改編後の学生の入学状況から、設定した入学定員が適正であったかを検証する。(再掲)</p> <p>1-4-1 平成29年4月に設置した臨床工学専攻の学生の入学状況から、設定した入学定員が適正であったかを検証する。また、臨床工学専攻の設置に向けて進めてきた準備が、計画どおり実行されているかを点検し、必要に応じて見直し、改善する。</p>

中期目標	目標を達成するための中期計画(措置)	平成29年度計画
<p>2 教授会、教務委員会等の各種委員会及び共通教育協議会を適切に整備し、機能させる。</p> <p>3 CANVAS、POLITE等を中心としたICTが、学生の教育・学習に活用できるように整備し、十分に機能させる。</p> <p>◎大学院</p> <p>1 大学院教育に対する社会の期待に応えるため、多様な修了プログラム・カリキュラム等を大学院の拡充を視野に入れて検討し、質の高い教育を追求する。 ・高度教育研究機能と大学院の充実のため博士課程への道筋を立てる。</p>	<p>2-1 定期的の問題点の洗い出しを行い、必要があれば改善策を検討し、改善を図る。</p> <p>3-1 CANVAS、POLITE等をはじめとした教育・学習システムの機能を拡充するとともに、より幅広い利用を促進するような支援活動や啓蒙活動を続ける。</p> <p>1-1 必要に応じて大学院の拡充等の見直しを検討する。</p> <p>1-2 学部の改編に合わせた分野、プログラムの見直しを検討する。</p>	<p>2-1-1 教授会、各種委員会の組織、運営状況等について、平成27年度、平成28年度の活動状況を整理し、自己点検を行い、必要に応じて改善する。</p> <p>3-1-1 全学必修科目として「ヘルスリテラシー入門」を学習者適応型eラーニング(POLITE)で実施する。</p> <p>3-1-2 CANVASとPOLITEに、学内の他の各種システム(電子書籍やeアシーナ等)との連携を図り、学生の学修状況をより詳細に分析し、授業改善に役立てる。</p> <p>【研究科委員会】【教育研究戦略委員会】</p> <p>1-1-1 経営情報学研究科の充実を図るとともに、新たな研究科(修士課程)の設置に向けて検討を進める。</p> <p>【研究科委員会】</p> <p>1-1-2 大学院拡充に伴う教育体制を検討する。</p> <p>【研究科委員会】</p> <p>1-2-1 平成29年度の学部の改組改編をもとにした大学院の組織の見直しを行い、分野、プログラムについて検討する。</p>
<p><b>(2) 学生の受入れに関する目標</b></p> <p>◎学士課程</p> <p>1 アドミッションポリシーの明確化と周知をする。</p> <p>2 一般・センター・AO・推薦の各入試の位置づけを明確にして、各学科のアドミッションポリシーに適う人材を社会に広く募集し、確保する仕組みを構築する。</p> <p>3 入試広報を一層充実する。</p>	<p>1-1 アドミッションポリシーを明確にするとともに、必要に応じて、毎年度アドミッションポリシーの見直しを行う。</p> <p>2-1 オープンキャンパス、学内外での模擬授業、iPad出前授業、公開講座、高大連携等で、本学のアドミッションポリシーを社会に周知するための機会を広く提供する。</p> <p>2-2 高等学校から大学教育への円滑な接続のため、高等学校との連携事業を実施する。</p> <p>3-1 入学者受入広報としてWebや各種出版物等を活用するとともに、入試広報体制を充実する。</p>	<p>【経営情報学部先端経営学科】</p> <p>1-1-1 平成29年度のアドミッションポリシー、ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーについて、必要があれば見直しを検討する。</p> <p>【経営情報学部システム情報学科】</p> <p>1-1-2 ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーについて、必要があれば見直しを検討する。</p> <p>【医療情報学部医療情報学科】</p> <p>1-1-3 平成29年度の学科再編後を見据え、新たに作成したアドミッションポリシーの実証、検討を行う。</p> <p>【情報メディア学部情報メディア学科】</p> <p>1-1-4 平成29年度カリキュラムに合わせたアドミッションポリシーの見直しが必要か否かの検討を行う。</p> <p>2-1-1 オープンキャンパスの大学説明及び学内外の模擬授業の中にアドミッションポリシーの説明を加えるとともに、掲載できる媒体を検討する。</p> <p>2-2-1 本学が提供する授業が高等学校や専門学校との単位互換となる高大及び専大連携校を増やす広報手段を検討する。</p> <p>3-1-1 効果的なWeb媒体及び進学希望者へのWebDMの実施を検討する。</p>

中期目標	目標を達成するための中期計画(措置)	平成29年度計画
<p>4 受験者層との接触機会を増やし、意欲のある質の高い学生を確保するための各種施策を実施する。</p> <p>5 国内外からの優秀な学生の受入れを一層促進し、入学定員充足率を100%とする。</p> <p>6 学部入試方法・体制の点検を行い、必要に応じて改善を行う。</p> <p>7 AO・推薦での入学予定者の入学前教育を充実する。</p> <p>◎大学院</p> <p>1 大学院入試方法・体制の点検を行い、必要に応じて改善を行う。</p> <p>2 既定のアドミッションポリシーを一層明確にするとともに、学生及び職業経験者の意欲・能力・適性等を多面的に評価する多様な入学選抜を実施する。</p> <p>3 社会人学生の受入れを推進する。</p>	<p>4-1 オープンキャンパス、学内外での模擬授業、iPad出前授業の実施など各種接触者の増加を図る。</p> <p>5-1 入学定員の充足に当たり、女子学生数、留学生数、社会人学生数の増加に努める。  ・女子学生の確保(IT女子等) 現在15%→30%(+50名)  ・留学生の確保(国際化戦略) 現在1.5%→5%(+12名)  ・社会人学生の確保 (+15名)</p> <p>6-1 入試方法・体制(出題体制等)の点検・見直し等を行う。</p> <p>7-1 AO・推薦での入学予定者の入学前教育について効果的な在り方を確立する。</p> <p>1-1 入試方法・体制の点検・見直し等を行う。</p> <p>2-1 学習能力及び学習意欲を備えた職業経験者・学生・留学生を積極的に受け入れる選抜方法を整備する。</p> <p>3-1 社会人学生の受入れ数増加に努める。</p> <p>3-2 社会人のニーズに応えるため、夜間や休日を利用した講義・実習の可能性について検討する。</p>	<p>【広報連絡協議会】</p> <p>4-1-1 オープンキャンパス、iPad出前授業や模擬授業の効果的な告知媒体と告知方法を検討する。</p> <p>4-1-2 広報室と教員が連携して高校訪問し、iPadを使った出前授業やガイダンスの実施等により、本学の魅力を高校生にアピールする。  教員による高校訪問(出前授業)の支援は、次のとおり行う。  ・学生確保の取り組みとして、広報室と教員が連携しながら、より効果的な高校訪問を実施していく。  ・広報室からのアプローチと教員からのアプローチを併せることで、高校との新しい繋がりを構築する。  ・広報室と教員が意を同じくし、情報共有して広報・募集を行う。</p> <p>5-1-1 女子学生、留学生、社会人の入学者増加策について実施計画を策定し、段階的に実施する。  ・女性教員と女子学生との交流の場の充実を図りながら「IT女子」の確保を目指す。  ・留学生及び社会人のための柔軟な教育プログラムの検討を行い、実施する。  ・留学生を積極的に受け入れる学年暦の見直しを行う。  ・留学生のための日本語教育の実施、財政支援を行う。  ・社会人学生への学費や奨学金制度の支援方策を検討する。  ・社会人学生像の明確化を図り、募集広報活動、入試方法について検討する。  ・社会人学生の教育環境としてのサテライトでの授業の可能性について検討する。</p> <p>【情報メディア学部情報メディア学科】</p> <p>5-1-2 平成29年度カリキュラムやコース設定等が、女子の入学定員確保につながるかオープンキャンパスのアンケートや聞き取りにより検討する。</p> <p>【教育研究戦略委員会】【入学者選抜委員会】</p> <p>6-1-1 文部科学省指示による高大接続改革に合わせた入学者選抜を検討する。</p> <p>6-1-2 入試問題の作成過程において、見直しが生じた場合は、必要に応じて検討する。</p> <p>7-1-1 これまでの実施状況を踏まえ、効果的な入学前教育の在り方について、引き続き検討を行う。</p> <p>1-1-1 入試方法の見直しを行う。</p> <p>2-1-1 留学生受入れ可能なカリキュラム、講義体制を検討する。</p> <p>3-1-1 社会人学生の受け入れを念頭に、デジタルビジネス時代にふさわしいプログラムを設置する。</p> <p>3-2-1 社会人のニーズに応えるため、夜間や休日を利用した講義・実習について検討する。</p>
<p><b>(3) 教育の内容・方法等に関する目標</b></p>		

中期目標	目標を達成するための中期計画(措置)	平成29年度計画
<p>1 共通教育・専門教育における到達目標を設定し、学生自ら学習を進めることができる教育を推進する。</p>	<p>1-1 共通教育・専門教育における到達目標を設定し、学生自ら学習を進めることができる教育を推進する。</p>	<p>【経営情報学部先端経営学科】 1-1-1 少人数教育・PBL(Project Based Learning)等を引き続き運用し、主体的学びの促進を積極的に図る。</p> <p>【医療情報学部医療情報学科】 1-1-2 ゼミナールを中心として学生の主体的学びの促進を目的とした講義「プロジェクトトライアル」の実施に向けた取り組みに着手する。</p> <p>【情報メディア学部情報メディア学科】 1-1-3 プロジェクト系科目を中心に、学生が主体的に学習を進める教育の促進を図る。</p> <p>【経営情報学部先端経営学科】 1-1-4 平成29年度カリキュラムにおけるコンピテンシーの妥当性を検討し、到達目標を必要に応じて見直す。</p> <p>【経営情報学部システム情報学科】 1-1-5 平成29年度カリキュラムにおけるコンピテンシーの妥当性を検討する。</p> <p>【医療情報学部医療情報学科】 1-1-6 平成29年度カリキュラムに対応できる新たに作成したコンピテンシーを基盤として、学生が自ら積極的に取り組むことができる達成目標を設ける。</p> <p>【情報メディア学部情報メディア学科】 1-1-7 平成29年度カリキュラムのコンピテンシーを学生に理解させ、主体的な学習へ促す方策を検討する。</p>
<p>2 コンピテンシーに基づくカリキュラムを編成する。</p>	<p>2-1 コンピテンシーに基づくカリキュラムを編成する。</p> <p>2-2 各学部学科において、教育課程編成・実施の方針を策定・公開するとともに、各授業科目の到達目標及び授業内容等をシラバスに明記する。</p>	<p>2-1-1 平成29年度カリキュラム改定方針である『デジタルビジネス(IoT、ビッグデータ、AI)時代にふさわしいカリキュラム編成』となっているか、見直しを行う。</p> <p>2-1-2 CDIOや実践の情報教育協働ネットワーク(enPiT)等の調査・研究の結果に基づいて、必要があれば、コンピテンシーの変更やカリキュラムの改善を検討する。</p> <p>【経営情報学部先端経営学科】 2-2-1 教育課程編成・実施の方針を策定・公開するとともに、各授業科目の到達目標及び授業内容等をシラバスに明記し、今後に向けて具体的な策定に役立てる。</p> <p>【経営情報学部システム情報学科】 2-2-2 平成29年度の教育課程編成・実施の方針、シラバスの内容について検証する。</p> <p>【医療情報学部医療情報学科】 2-2-3 平成29年度以降に対応した新たに作成したコンピテンシーを基盤とする入学時からの講義内容を検討し、シラバスに反映させる。</p> <p>【情報メディア学部情報メディア学科】 2-2-4 平成29年度カリキュラムポリシーを考慮したシラバスの内容になっていることを確認する。</p>
<p>3 HIU教育モデルを構築する。</p>	<p>3-1 ピラミッド的の序列から抜け出す問題解決型の人材を育成する。</p>	<p>3-1-1 ピラミッド的の序列から抜け出す問題解決型の人材を育成するための組織として「松尾アカデミー」の具体的な制度を決定する。</p>

中期目標	目標を達成するための中期計画(措置)	平成29年度計画
	<p>3-2「松尾アカデミー」の創設に係る教育プログラム、実施方法等を策定し、実施する。</p> <p>3-3 主体的な学びを実現させる効果的な授業方法(ARCSモデル、ピア・インストラクション、インストラクショナルデザイン、ルーブリック、ノミナル・グループ手法等)を検討、実施する。</p> <p>3-4 倫理教育の充実を図り、学生として守るべききまり～人として、学生としての品格を身に付けるための11か条への遵守に向けた指導、取り組みを行う。</p> <p>3-5 すべての学生を卒業に導く育成環境を構築し、推進する。</p>	<p>【松尾アカデミー設置準備室】 3-2-1「松尾アカデミー(HIUトップガン)」の入試方法、教育内容、実施方法、支援方策等について引き続き検討する。</p> <p>【松尾アカデミー設置準備室】 3-2-2「松尾アカデミー(HIUトップガン)」を通じて、学生を外国の大学に派遣するための体制について、引き続き検討する。</p> <p>3-3-1 アクティブラーニングの実践事例を基に、本学の主体的学びに導く授業モデルを検討するとともに、主体的学びに導くTipsを整理する。</p> <p>【全学教務・FD委員会】【経営情報学部先端経営学科】【経営情報学部システム情報学科】【情報メディア学部情報メディア学科】 3-4-1「学生として守るべききまり」の遵守指導方法、取組状況について点検し、実効ある取り組みがなされるようにする。</p> <p>【医療情報学部医療情報学科】 3-4-2 各ゼミナール担当教員が、個別に所属学生と密にコンタクトできる体制をとり、勉学への意欲を維持できるよう周知徹底する。</p> <p>3-5-1「すべての学生を卒業に導くための実行プラン2016」を踏まえて、2017版を作成し、実施する。 退学率改善委員会及びケア支援・卒業支援学修アドバイザー合同連絡会議を毎月定例的に開催することで、PDCAサイクルを実施する。</p> <p>3-5-2 3年次への進級要件(56単位)を廃止した平成28年度以降の入学者に対して、フォローする。</p>
<p>◎共通教育</p> <p>1 社会人基礎力としての教養を磨くための共通教育を実施するに当たって、科目特性に適した効果的なクラス展開や指導方法を確立する。</p>	<p>1-1 関連する科目間及び各科目内での担当者の密接な連携を図る。</p> <p>1-2 主体的学びを支援するため、採用可能な科目においてPOLITEの活用を図る。</p> <p>1-3 クラス規模の適正化について検討する。</p>	<p>1-1-1 複数の教員が担当する必修科目について、科目内における共通の教材、成績評価基準の標準化を検討する。</p> <p>1-2-1 POLITE活用のモデル科目を選定する。</p> <p>1-3-1 クラス規模の適正化が必要な科目を選定する。</p>
<p>2 国際性と豊かな人間性を育む教養教育を軸として、専門教育との整合性やバランスに配慮したカリキュラム体系を構築する。</p> <p>◎専門教育</p> <p>1 カリキュラムポリシーを実現するため、それぞれの科目特性に適合した形態、及び学習指導方法等を充実する。</p>	<p>2-1 カリキュラムの目的が達成されているかどうかを検討し、必要に応じて調整、改正を行う。</p> <p>1-1 eラーニング教育、学生体験型、学生参加型科目を充実させる。</p> <p>1-2 PBL(Project Based Learning)、Active Learningを採用可能な科目についてその実現を推進する。</p> <p>1-3 時間割配置、4学期制、授業時間の適正化等を検討する。</p>	<p>2-1-1 平成29年度のカリキュラムが、国際性を育む教養教育を実現するうえで適切かどうかを検討する。</p> <p>1-1-1 平成29年度カリキュラムの1年次科目について、eラーニング教育、学生体験型、学生参加型科目の実施状況を確認し、必要があれば関係部署に改善を促す。</p> <p>1-2-1 平成29年度カリキュラムの1年次科目について、PBL(Project Based Learning)の実施状況を確認し、必要があれば関係部署に改善を促す。</p> <p>【全学教務・FD委員会】 1-3-1 平成30年度の時間割配置等について、前後期の2期制も含めた実現性を確認する。</p>

中期目標	目標を達成するための中期計画(措置)	平成29年度計画
<p>2 4年間を通して効果的なカリキュラム体系を作成し、理解力、応用力、問題解決力を高める。</p> <p>◎大学院</p> <p>1 大学院に対する新しい学問的・社会的要請に相応しい、体系的な教育方法を柔軟かつ適切に構築する。</p> <p>2 多様化する大学院志願者の能力を多面的に育成する。</p> <p>3 学士課程からの継続性を考慮した大学院の充実を図る。</p> <p>4 国際化を図る。</p>	<p>2-1 各学科の特徴に応じて、4年間を通したカリキュラムの検討作業を継続する。</p> <p>1-1 eラーニング教育を充実させ、チームティーチング制度や PBLを採用可能な科目についてその実現を推進する。</p> <p>2-1 社会が必要とする高度技術の修得や職業経験者のスキルアップのためのカリキュラムを整備する。</p> <p>2-2 大学院教育の弾力化・多様化・活性化を図るために指導教員の構成を検討する。</p> <p>2-3 留学生に対する教育カリキュラムを整備・充実する。</p> <p>3-1 学士課程からの継続性を考慮した大学院の充実を図る。</p> <p>4-1 英語による教育科目を増加させ、留学生・日本人学生の国際性を涵養する。</p>	<p>【教務委員会】</p> <p>1-3-2 学期の途中で終了する科目及び学期の途中から開始する科目の運用について、問題点等を集約し、学年暦について問題等が無いかを合わせて検証し、次期カリキュラム改正に向けて検討を始める。</p> <p>2-1-1 各学科等の平成29年度カリキュラムが、学科等の特徴に応じて、効果的な体系になっているかを確認するように、関係部署に促す。</p> <p>2-1-2 平成28年度に策定したナンバリングの活用方法を検討し、定着化を図る。</p> <p>1-1-1 平成30年度開講講義の教育手法を検討する。</p> <p>2-1-1 社会人学生にふさわしいプログラムを設置する。</p> <p>2-2-1 大学院教育の多様化に伴う指導教員の構成を検討する。</p> <p>2-3-1 タスクフォース7で検討しているダブルディグリー制度に向けたカリキュラムを検討する。</p> <p>3-1-1 大学院拡充と学士課程からの継続性について検討する。</p> <p>4-1-1 英語による講義の可能性を検討する。</p>
<p><b>(4) 教育の実施体制に関する目標</b></p> <p>◎学士課程</p> <p>1 多様化に対応して少人数対応の科目を配置するなど、個々の学生に目が行きとどいた教育を実施するための全学的な取り組みを強化する。</p>	<p>1-1 各教員及び教員相互の自己点検を強化するために、学科長、各種委員会、FD組織など教職員の連携を強化する。</p>	<p>【経営情報学部先端経営学科】</p> <p>1-1-1 個々の学生に目が行きとどいた教育を実施するために、各種委員会、FD組織等との連携を充実する。</p> <p>【経営情報学部システム情報学科】</p> <p>1-1-2 退学対策については、退学率改善委員会と連携して検討する。</p> <p>【経営情報学部システム情報学科】</p> <p>1-1-3 プログラミング教育、退学対策、就職活動等において、関係する委員会、WGと連携を密にする。</p> <p>【医療情報学部医療情報学科】</p> <p>1-1-4 すべての学科の学生が受講できる「グローバルヘルスリテラシー」(集中講義)を継続し、健康情報を通した国際交流の場としてもアピールできる仕組みに取り組む。</p> <p>【情報メディア学部情報メディア学科】</p> <p>1-1-5 教員間の連携の成果を確認し、関連する各種委員会等の連携を一層強化するための方策について検討を行う。</p>

中期目標	目標を達成するための中期計画(措置)	平成29年度計画
<p>2 教員の年齢構成の適正化、各教員の担当するゼミ生数の平準化及び教員の活性化・スキルアップを図る。</p>	<p>2-1 教員の年齢構成の偏り解消に努め、教員の各学科への適正配置を適宜行える仕組みを検討し、複数の教員が担当可能な専門科目でのローテーションなど柔軟な運営を計画する。</p>	<p>2-1-1 教育研究戦略委員会(B)において教員人事の方針を検討し、教育研究評議会の議を経て教員人事を進めている現行のシステムは、各学科等の意見を聴取し、また、必要に応じてS/T比バランスを考慮した人員配置を行っており、当面は、十分に機能している現行のシステムで教員人事を進めていく。</p> <p>2-1-2 継続して女性教員の採用拡大を図る。</p> <p>【経営情報学部先端経営学科】 2-1-3 教員の年齢構成が偏らないように努める。</p> <p>【経営情報学部システム情報学科】 2-1-4 適正配置について検討する。</p> <p>【医療情報学部医療情報学科】 2-1-5 専門分野が多様化することから、教員の専門性を学生教育に効率的に生かすため、オムニバス方式を含めた教員間連携を一層進める。</p> <p>【情報メディア学部情報メディア学科】 2-1-6 教員の年齢構成を考慮し、偏りのない教員の配置について検討する。</p>
<p>3 少人数教育を実施する。</p>	<p>3-1 共通教育科目間の授業内容や教育効果に関する情報を共有し、基礎科目の少人数教育、教養科目におけるクラス規模の適正化を図る。 ・少人数教育を実施する。(ST比 21 → 18)</p> <p>3-2 少人数教育を、導入ゼミ・前期ゼミ等、学部目標に即して改善・充実させ、探求心と実証力、多様な表現力、対話の姿勢と共感性や交渉力を養う。</p>	<p>【経営情報学部先端経営学科】 3-1-1 少人数教育の実施及び教育内容の充実にも努める。</p> <p>【経営情報学部システム情報学科】 3-1-2 学科のカリキュラム検討WGで、少人数教育が必要な科目を検討する。</p> <p>【医療情報学部医療情報学科】 3-1-3 学習能力向上を目的として、各教員が責任をもって学習能力向上に取り組むことができるクラスの再編成に取り組む。</p> <p>【情報メディア学部情報メディア学科】 3-1-4 専門基礎科目において、学生人数を検討する。</p> <p>【共通教育協議会】 3-1-5 各科目グループが年度ごとに提出する「教育上の課題」により教育効果の情報を共有し、検討すべき課題を見いだす。</p> <p>【経営情報学部先端経営学科】 3-2-1 少人数教育に関して、必要に応じて、学科目標に即して改善・充実させることを検討する。</p> <p>【経営情報学部システム情報学科】 3-2-2 2年生前期の少人数教育の必要性について検討する。</p> <p>【医療情報学部医療情報学科】 3-2-3 担当ゼミ教員の専門性を生かし、学生の将来を考慮した実践的な専門教育に取り組む。</p> <p>【情報メディア学部情報メディア学科】 3-2-4 専門ゼミの人数配分を均一化することに努める。</p>



中期目標	目標を達成するための中期計画(措置)	平成29年度計画
4 ICTの利活用と教育方法の改善によるFD及び教育イノベーションを推進する。	<p>4-1 教育GPで開発したFD支援システムCANVASを活用し、授業改善のためのPDCAサイクルの定着化を図る。</p> <p>4-2 授業改善のための諸制度・システム、ファカルティポートフォリオ等をより一層充実させ、教育の質を高めるために必要な情報の共有化を図る。</p>	<p>【共通教育協議会】 3-2-5 ビギナーズセミナーの実施内容について、引き続き検討する。</p> <p>4-1-1 CANVASを利用した授業改善の活動を引き続き実施する。必要に応じて、システムの改善を行う。</p> <p>4-2-1 平成28年度に受審した大学機関別認証評価の実地調査時に指摘を受け策定した「授業評価アンケート回収率の改善対策」について、効果を検討し、必要があれば改善策を検討する。</p> <p>4-2-2 平成28年度まで実施してきたピアレビューの方法を踏襲し、100%の教員が参加できるように引き続き支援する。</p> <p>4-2-3 平成28年度に受審した大学機関別認証評価の実地調査時に指摘を受け策定した「FD関連研修への出席率の向上策」について、効果を検討し、必要があれば改善策を検討する。</p>
5 個々の学生のラーニングアウトカムや活動を総合的に把握し、学生の意欲向上につながる高度なICT教育環境を構築、整備する。	<p>5-1 「教える」から「学ぶ」教育方法の調査・研究を進めながら段階的に学習環境を整備し、実施する。 ・POLITE、CANVAS、主体的学びiPad等を整備する。 ・モバイル端末保有率を100%とする。</p> <p>5-2 学生を大切に育てる環境として、ICTを活用しながら教職員と学生(学習チュータ等)が協同する仕組みを検討し、実施する。 ・スマートキャンパス化、IoT、ビッグデータ、見える化を図る。</p> <p>5-3 GPAの積極的活用とGPA導入に伴う諸制度及びシステムの充実を図る。</p> <p>5-4 個々の学生のコンピテンシーの達成状況を可視化し、学習意欲の向上を図る。</p>	<p>5-1-1 ラーニングアウトカム(コンピテンシー達成度等)の利用が学生の意欲向上につながっているかなどの実態を把握して、システムや運用方法の改善を行う。</p> <p>5-1-2 プログラミング学習に特化したWebアプリケーションの完成と教材の作成、プログラミング教育に関する教員の全学的な情報共有を促進し、プログラミングのエッセンスを実習を通して体験する授業の詳細を決定し、教材の作成を進める。</p> <p>5-2-1 「主体的学びに導くための実行プラン2017」に基づき、「多様な学生の意欲(モチベーション)を高めるための施策」、「学生参加型授業(アクティブラーニング)を支援、推進するための施策」及び「それらを実施するためのICT環境及びツールの整備」を実施する。</p> <p>5-3-1 GPAの更なる活用の可能性を検討する。</p> <p>5-3-2 GPAの更なる活用の前提となる、同一科目を複数の教員が担当する科目における成績評価のばらつきについて分析し、担当部署に報告する。</p> <p>5-3-3 IRとエンrollment・マネジメントについてを深め、他大学と本学の状況を比較しGPAデータを柱とした現実的な教学IRの方法を模索する。</p> <p>【全学教務・FD委員会】【経営情報学部先端経営学科】 5-4-1 科目の単位取得との関連以外のコンピテンシーの達成度(ルーブリック等を参考に)の提示方法等について、引き続き検討する。</p>
◎教職課程 1 教職課程の教育体制を充実する。	<p>1-1 教員養成を担う教員の専門性の向上を図る。</p> <p>1-2 各学科における教科専門教育の教育体制の充実を図る。</p> <p>1-3 教職課程の運営体制の充実を図る。</p>	<p>1-1-1 教員養成を担当する教員の専門性を向上するための取り組みを検討し、実施する。</p> <p>1-2-1 各学科における教科専門教育の教育体制の充実方策を検討する。</p> <p>1-3-1 教職課程の運営体制の充実方策を検討する。</p>
◎大学院		

中期目標	目標を達成するための中期計画(措置)	平成29年度計画
<p>1 大学教育や職業経験者から大学院教育への円滑な接続を図り、大学院の教育目標を達成するために、学習の継続性を確保する。</p>	<p>1-1 大学院教育と学士課程教育の連携体制を整備し、大学院教育に対する職業経験者の多様な期待に対応する。</p>	<p>1-1-1 職業経験者を取り入れた大学院教育を検討する。</p>
<p><b>(5) 教育の成果に関する目標</b>  ◎共通教育  1 学士に相応しい基礎学力と教養を身に付けさせる。</p> <p>◎専門教育  1 卒業時に修得すべき内容を明らかにして、学士の質を保証する。</p> <p>◎大学院  1 大学院教育に対する社会の多様な要請に相応しい学位を授与する。</p>	<p>1-1 基礎学力、論理的思考力、国際感覚、情報リテラシー、将来のキャリアを準備する能力等を身に付けさせるため、共通教育科目の充実を図る。</p> <p>1-1 卒業試験や卒業時に修得すべき内容等の検討により学士の質を保証するための具体策を設定する。</p> <p>1-1 修士論文と特定課題研究の審査基準を明確化する。</p>	<p>1-1-1 基礎学力、国際感覚等を身に付けさせるため、共通教育科目について、実施状況を確認し、改善が必要かどうか検討する。</p> <p>【経営情報学部先端経営学科】  1-1-1 卒業試験や卒業時に修得すべき内容等の検討により、学士の質を保証するための具体策を検討する。(再掲)</p> <p>【経営情報学部システム情報学科】  1-1-2 質保証の仕組みについて学科のカリキュラム検討WGで検討する。</p> <p>【医療情報学部医療情報学科】  1-1-3 コンピテンシーに応じた入学時から卒業までの授業展開における履修モデルの作成について検討する。</p> <p>【情報メディア学部情報メディア学科】  1-1-4 ディプロマポリシーに対応した学士の質保証への具体策を検討する。</p> <p>1-1-1 修士論文と特定課題研究の審査基準について、引き続き検討する。</p>
<p><b>(6) 学生の支援に関する目標</b>  ◎学士課程  1 学生の学習実態を把握し、学内関係組織等と連携して多様な学力の学生に対する授業内外での適切な学習支援を行うとともに、主体的・自立的な学習習慣を涵養する。</p> <p>◎学生生活への支援  1 学生サービス、厚生補導等の支援体制の整備充実、学生支援組織の適切な運営に努め、学生生活環境を整備充実する。</p>	<p>1-1 保護者、学習支援センター、図書館、共通教育協議会、各学科及び教務委員会、クラス担任等との連携を図り、授業内外での学習が円滑に行えるよう支援を行う。</p> <p>1-2 自習室やグループ学習室でのピアサポートを通じて、授業内容を発展させるために学習支援し、主体的・自立的な発展学習を促す。</p> <p>1-1 学生の意見等を踏まえながら継続的に学生のニーズを反映したサービスの充実を図る。</p>	<p>1-1-1 英語、数学、国語に関する基礎学力が不足している学生に対して、各科目担当者と連携し、基礎教育の経験者等による学習支援を継続して実施する。</p> <p>1-2-1 学内外のコンテスト、資格取得支援、ピアサポートルームを中心とする学習コンピュータ活動等の充実について、引き続き検討する。</p> <p>【経営情報学部システム情報学科】  1-2-2 システム情報学科主催のプログラミングコンテストの運営を支援する。</p> <p>【医療情報学部医療情報学科】  1-2-3 医療情報学科主催の学内公開発表会のさらなる充実を目指し、内容について検討する。</p> <p>【情報メディア学部情報メディア学科】  1-2-4 すでに行っている学科主催のコンテストの充実について検討する。</p> <p>1-1-1 平成29年度に実施する学生満足度調査結果その他学生の意見等を踏まえ、学生サービスについて継続し検討する。</p>

中期目標	目標を達成するための中期計画(措置)	平成29年度計画
<p>◎留年・退学者対策</p> <p>1 社会の高度化、複雑化を背景とした学生の多様化に対応して、留年生、中途退学者を減少させ、退学率を10%とする。</p> <p>◎卒業後の進路、就職支援</p>	<p>1-2 学生相談窓口業務のサービスを一層向上させる。</p> <p>1-3 キャッチコピー(あなたを大切に育てるe環境)を踏まえた取り組みを各学科等、事務局各課・室において実施する。</p> <p>1-4 学生満足度調査を定期的実施しその結果を公表し、必要に応じて改善を図る。</p> <p>1-5 食堂、売店、学生宿舎等の福利厚生施設を再点検する。</p> <p>1-1 すべての学生を卒業に導く育成環境を構築し、推進する。(再掲)</p>	<p><b>【学生委員会】【学生サポートセンター事務局】【教務課】</b>  1-2-1 平成29年度に実施する学生満足度調査結果その他学生の意見等を踏まえ、学生サービスについて継続し検討する。</p> <p><b>【大学事務局】【経営情報学部先端経営学科】【経営情報学部システム情報学科】【情報メディア学部情報メディア学科】</b>  1-3-1 平成29年度についても、キャッチコピー(あなたを大切に育てるe環境)を踏まえた取り組みを継続して実施する。</p> <p><b>【医療情報学部医療情報学科】</b>  1-3-2 キャッチコピーの理念について、各教員がその理念について理解を深め、学生教育に生かせるよう周知徹底する。</p> <p><b>【教務課】</b>  1-3-3 教務課では、キャンパスシステムやPOLITE、CANVASに蓄積されている各種データを活用して、より良い学修につながる情報提供を教員と協働しながら実施する。</p> <p><b>【教務課】</b>  1-3-4 学生の各種相談について、一人ひとりと向き合い、学生の立場を考えて丁寧な対応を行う。</p> <p>1-4-1 平成29年度に学生満足度調査を実施する。</p> <p>1-5-1 平成29年度に学生満足度調査を実施し、学生の要望等のアンケートも踏まえ、整備できるものから実施する。</p> <p>1-1-1「すべての学生を卒業に導くための実行プラン2016」を踏まえて、2017版を作成し、実施する。(再掲)</p> <p><b>【全学教務・FD委員会】</b>  1-1-2 卒業支援学修アドバイザー制度については運用しつつ、問題点への対応を続けていく。後期には、新たなアドバイザーを任命し、2年目の運用を開始する。</p> <p><b>【退学率改善委員会】</b>  1-1-3 平成29年度の学生の心理アンケートについても、後期授業開始後に実施する。また、学生指導のために必要な情報共有については、教職員ポータルサイトの「学生指導支援・就職指導支援」を活用する。</p> <p><b>【退学率改善委員会】</b>  1-1-4 1年生と2年生の連続欠席対応を日々行う。担当のクラス担任が対応できないときは、ふらっとルームが対応する。毎週金曜日にTCC(トータルケアコーディネーター)ミーティングを行い、個別に対応する。</p> <p><b>【退学率改善委員会】</b>  1-1-5 平成29年度も継続し、対応の流れを決めたフローシートで実践する。</p>

中期目標	目標を達成するための中期計画(措置)	平成29年度計画
<p>1 学生の職業意識を高めるとともに、資格取得支援教育を拡充するなど、学生の就職活動を多面的に支援する。就職支援に関する体制、指導内容等について必要な見直しを行い、学生の意識・意見も踏まえながら就職支援と進路指導の適切な実施に努め、就職委員会と学部、学科、関係委員会、各教員等との連携による就職指導体制の充実を図る。</p> <p>就職希望者の就職率97%を目指す。</p>	<p>1-1 各学科、学生サポートセンター事務室を始めとする関係部署との連携、情報共有を図ることにより教員の就職に対する意識の向上を図る。</p> <p>・IoTを活用した学生・教員・学生サポートセンター事務室の連絡網確立による就活支援を図る。</p> <p>1-2 就職相談・助言等の就職指導体制を整備し、就職説明会の開催、就職情報の提供、就職活動への動機づけ等、多様な就職支援策を検討する。</p> <p>1-3 各種資格の取得に向け資格試験対策講座を実施するなどし、合格率を向上させるよう努める。</p> <p>1-4 新規インターンシップ受入企業の開拓に努める。</p> <p>・産学官研連携によるインターンシップを推進する。</p> <p>・専門教育との関連付けにより一層効果を発揮するコーオプ教育プログラム(大学での授業と企業での実践的な就業体験を繰り返すプログラム)を実施する。</p> <p>1-5 学生の起業を支援する。</p> <p>1-6 学生による地域活性化のための活動、ボランティア活動等の多様な課外活動を支援する。</p>	<p>1-1-1 各学科教員等との連携による就職指導の在り方について検討するとともに、指導の内容、指導方法等の充実について、引き続き検討する。また、就職支援のために、新規技術導入の可能性を含めて、情報技術を活用した学生・教員・学生サポートセンター事務室の連絡網の確立・強化の方策について検討する。</p> <p>1-2-1 就職相談・助言等の指導体制を充実し、教職員や外部組織とも連携した就職指導の強化について、引き続き検討する。</p> <p>1-3-1 各種資格対策講座を実施し、資格取得者の増加に努める。</p> <p><b>【教育研究戦略委員会】【教務課】</b></p> <p>1-4-1 企業及び行政機関へのインターンシップについて、インターンシップ担当教員とともに、平成28年度の実績や反省点を踏まえて、改善しながら実施する。また、コーオプ教育プログラムについて、実施に向けた検討を始める。</p> <p>1-5-1 各学科、各委員会及び各センターに対して寄附金の使用希望を募集し、応募のあった実施計画に対して、寄附金額に対応した事業の審査、選定を行う。</p> <p>1-5-2 アドバイザー機能の一層の充実を図る。学外の機関との連携を一層深め、起業への支援機能を充実させる。</p> <p>1-6-1 各学科、各委員会及び各センターに対して寄附金の使用希望を募集し、応募のあった実施計画に対して、寄附金額に対応した事業の審査、選定を行う。(再掲)</p> <p><b>【経営情報学部システム情報学科】</b></p> <p>1-6-2 地域活性化活動、ボランティア活動の可能性について検討する。</p> <p><b>【医療情報学部医療情報学科】</b></p> <p>1-6-3 地域に密着した学生主体の取組みについて、健康チェックステーションの活用幅を広げ、薬局や商業施設への設置を進め、学生が市民の健康に直接関与できる仕組みを構築する。</p> <p><b>【情報メディア学部情報メディア学科】</b></p> <p>1-6-4 すでに行っている学科主催の課外活動の支援について検討する。</p>
<p>◎健康増進</p> <p>1 学生の健康の保持、学生相談等に関する体制整備を図るとともに、保健センター及び学生相談室の業務の充実を努める。また、保健センター及び学生相談室における健康、悩み、その他学生のあらゆる生活上の問題に関し効果的な支援を行う。</p> <p>◎課外活動、自主的活動への支援</p> <p>1 課外活動、その他の厚生事業等を適正に運営するとともに、学生の自主的活動等を支援する。</p> <p>◎経済的支援</p>	<p>1-1 保健センター及び学生相談室の運営体制等の見直しを行い、各種の問題に対し学内外の関係組織等との連携を図りつつ、遅滞なく適切に対処するための体制を整備する。</p> <p>1-1 学生の課外活動、奨学金、その他の厚生事業等の適正運営について検討する。</p>	<p><b>【保健センター】</b></p> <p>1-1-1 保健センター運営会議を定期開催し、学生相談室との連携強化、学生の健康維持・健康増進のための保健指導及び健康情報発信を行う。また、肥満Ⅱ度以上、高血圧、睡眠に問題のある学生の生活指導に重点を置き、効果的な支援を行う。</p> <p>1-1-1 学生の課外活動その他の厚生事業等について、学生の意見・要望等を踏まえ、継続して自主的な課外活動の支援方策等について検討する。</p>

中期目標	目標を達成するための中期計画(措置)	平成29年度計画
<p>1 経済的に困難な学生を支援し、経済困難から退学や除籍になる学生への支援対策を推進する。</p> <p>◎留学生</p> <p>1 留学生の受入れ体制から教育支援まで全学的なサポート体制を作り、学内外での異文化交流を充実させる。</p> <p>◎ 大学院</p> <p>1 生活支援・就職活動等の支援の充実、キャンパス生活向上のため、柔軟かつ適切に対処する。</p>	<p>1-1 経済的困難による退学や除籍になる学生への支援対策を検討する。</p> <p>1-1 住環境整備、関連職員・カウンセラー等の充足、経済支援制度の強化、就職支援の充実等、留学生の支援制度を拡充する。</p> <p>1-2 留学生の日本語力や授業受講能力向上を図るとともに、授業における留学生補助等も検討する。</p> <p>1-1 院生の健康・メンタルヘルス相談制度、経済支援に関する方策を点検するとともに、院生の就職活動への相談体制を充実させるため企業が求める人材の調査研究を推進する。</p>	<p>1-1-1 経済的理由によりやむを得ず退学・除籍となる学生への支援対策について、全学教務・FD委員会での検討結果等を踏まえ、奨学金その他の支援方策等について検討する。</p> <p>1-1-1 留学生の受入れ体制から教育支援までの全学的なサポート体制の強化を継続する。</p> <p>1-1-2 留学生の日常生活相談等についても、引き続き国際交流・留学生支援課で常時応じる。</p> <p>1-1-3 経済支援としては、授業料の減免を行う。また、奨学金については日本学生支援機構の制度や本学独自の制度を活用する。</p> <p>1-1-4 就職支援としては、本学の学生サポートセンター事務室、江別市や札幌市の商工会議所等と協力して就職活動の支援を行う。</p> <p>1-2-1 新入学の留学生を対象とした受入れ直後の新学期前の期間において、日本語特別講座を実施する。</p> <p>1-2-2 在籍している外国人留学生を対象に日本語能力試験JLPT2級の受験対策講座を実施する。</p> <p>1-2-3 授業における補助は、学習支援センターと協力して、留学生チュータを検討する。</p> <p>1-2-4 留学生の日本語力向上や異文化交流を目的として、地元、地域も含め、学内外での様々な行事に積極的に参加させる。</p> <p>1-1-1 学部の組織以外の必要性について検討する。</p>
<p><b>(7) 教育環境に関する目標</b></p> <p>1 教育施設・設備を拡充するとともに、それらを効率的に運用し、教育環境の向上を図る。</p> <p>2 本学の学部・学科の特色を生かした教育環境を整備する。</p>	<p>1-1 施設・設備の優先順位を明らかにするキャンパス・マスタープランを作成し、教室の大きさや音響、レイアウト、また講義で使用するソフトや機器の数・配置等が講義の性格及び受講生の数からみて適切であるかを検討する。学部・学科別の校舎・フロアへの再編を行い、空調設備の整備、図書館の充実を図り、24時間利用可能なキャンパスを目指す。</p> <p>2-1 メディアクリエイティブセンター(MCC)を中心にゼミナール、プロジェクト学習での利用に相応しい施設・設備の整備を定期的実施する。</p>	<p>1-1-1 各学科、各委員会及び各センターに対して寄附金の使用希望を募集し、応募のあった実施計画に対して、寄附金額に対応した事業の審査、選定を行う。(再掲)</p> <p>1-1-2 第Ⅱ期保全計画(平成28年度～平成32年度)のうち、平成29年度保全工事を実施する。工事優先度等の詳細項目については、保全計画実施前に、大学、法人合同の年度別保全計画実施項目調整会議を実施して、柔軟な施設整備を実施する。</p> <p><b>【経営情報学部先端経営学科】</b></p> <p>2-1-1 ゼミナール、プロジェクト学習での利用に相応しい施設・設備の整備を定期的点検し、必要に応じて見直す。</p> <p><b>【経営情報学部システム情報学科】</b></p> <p>2-1-2 平成29年度新規科目実施にあたり、必要な環境があるか検討する。</p> <p><b>【医療情報学部医療情報学科】</b></p> <p>2-1-3 健康情報科学センター、先端医療・健康情報教育センターを利用して、学生の自主的学習が可能となる施設の整備を検討する。</p>

中期目標	目標を達成するための中期計画(措置)	平成29年度計画
<p>3 情報センターの機能を充実させる。</p> <p>4 大学院の特色を生かした教育環境を整備する。</p> <p>5 カリキュラム、シラバスと密接に連動し、学生の利用動向を把握し、学生、教職員のニーズに応えた図書館サービスを提供する。</p> <p>6 教育研究施設の整備充実を図るとともに、各センターにおける活動を推進する。</p>	<p>3-1 仮想サーバ・クラウド等の技術が利用可能性についての検討を行い、資源の有効活用を図る。</p> <p>4-1 大学院における教育環境の更なる向上を検討する。</p> <p>5-1 学生の利用動向を把握し学生のニーズを反映した図書を整備するとともに、学生、教職員への文献サービスの体系的な整備充実を図る。</p> <p>6-1 eラーニング推進センター、先端医療・健康情報教育センター、メディアクリエイティブセンター、健康情報科学研究センター、宇宙情報センター、地域連携・産学連携センター、アントレプレナーシップセンターを整備するとともに、各センターによる教育研究活動を推進する。</p>	<p>【情報メディア学部情報メディア学科】</p> <p>2-1-4 ゼミナール、プロジェクト学習での利用に相応しい施設の設置と設備の整備を行う。</p> <p>3-1-1 実習室2のPC、画像メディア実習室のPC、実習室ドメイン管理サーバ、eDCタワー設置PCの更新を平成30年度に行う計画を立案する。</p> <p>4-1-1 教育環境として不足していることを調査し、必要な対策を検討する。</p> <p>5-1-1 アンケート調査や希望図書制度の周知等を通じて利用動向を把握し、学生のニーズを反映した図書の整備充実を通じて、図書館の利用促進を図る。</p> <p>5-1-2 学科構成、カリキュラム等に基づいて、定期的・計画的に資料を収集し、シラバス指定図書の電子書籍導入等、学生、教職員への文献サービスの体系的な整備充実を図り、本学らしい特色ある蔵書群の構築を目指す。</p> <p>6-1-1各センターの活動状況、成果等について教育研究評議会で確認し、必要に応じて改善を図るとともに、運営費を支援していく。</p> <p>【eラーニング推進センター】</p> <p>6-1-2 POLITEやiPad等を利用したmラーニングによる「主体的な学びへ導くためのICT環境構築モデル」の機能改善や拡充を図る。</p> <p>【eラーニング推進センター】</p> <p>6-1-3 教育の質を高めるためのPDCAサイクルをより一層加速するため、CANVASの機能や情報共有の在り方を検討し、改善を図る。</p> <p>【eラーニング推進センター】</p> <p>6-1-4 JMOOCやiTunes U等のオープン・エデュケーションの利活用の可能性と本学のICT環境の融合を検討し、今後のeラーニングのプラットフォームのあるべき姿を追求する。</p> <p>【eラーニング推進センター】</p> <p>6-1-5 iPad出前授業の支援を行うとともに、運用環境の改善を図る。</p> <p>【eラーニング推進センター】</p> <p>6-1-6 POLITEのコンテンツの多言語化対応を進める。</p> <p>【先端医療・健康情報教育センター】</p> <p>6-1-7 健康情報の啓蒙を一般市民及び学生に提供することを継続する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般市民を対象に「公開講座」を開催する。1回一つの病気について症状、診断、治療を分かりやすく説明する。</li> <li>・学生や職員を対象に日常遭遇する可能性のある救急救命処置法を実際の器具を使用して講習を行う。</li> <li>・細胞培養実験:癌培養細胞を用いて、抗癌剤耐性株を作成し、その癌幹細胞との関連を検討する。</li> <li>・学生を対象に癌登録、DPC登録の方法を電子カルテを使用して実践的に講義する。</li> </ul>

中期目標	目標を達成するための中期計画(措置)	平成29年度計画
		<p>【メディアクリエイティブセンター】 6-1-8 プロジェクションマッピング及びVR(仮想現実)に関するプロジェクトを増やす。アントレプレナーシップセンターとの連携を図る。</p> <p>【健康情報科学研究センター】 6-1-9 食の臨床試験と地域健康の二つの領域について、産学官連携を強化し、地域基盤としての充実を図り、社会貢献に努める。また、この分野での研究者や学生の国外との交流の分野を増やし、一層のグローバル展開を進める。</p> <p>【宇宙情報センター】 6-1-10 イベント・講演会・出前授業を実施するとともに、衛星・探査機データサーバにデータを導入し、講義や実習で利用可能とする。また、産官学連携を推進する。</p> <p>【地域連携・産学連携センター】 6-1-11 研究・教育、生涯学習、産学官連携の各部門ごとに事業計画を策定し、教育研究活動を推進する。</p> <p>【アントレプレナーシップセンター】 6-1-12 センター設備の一層の充実を図る。とくに、プロトタイピングに必要なセンサー類やIoTに利用可能な機器に関して充実させる。Facebookページや本学ホームページでの積極的な広報活動を行う。学部横断型のハッカソン、アイデアソンやデザイン思考を採り入れたワークショップを積極的に開催することで、学生の起業家精神の醸成を促す。</p>
<b>II 教育に関する目標</b> <b>II-2 通信教育部の教育に関する目標</b>		
<b>(1) 通信教育部の方針に関する目標</b> 1 通信教育の社会的ニーズを踏まえ、通学課程と連携しながら、通信教育課程の改革を進める。	1-1 通信教育のニーズや大学通信教育政策等の動向を調査する。  1-2 通信教育課程の改革を進める。	1-1-1 私立大学通信教育協会等を通じて大学通信教育政策等の動向を調査する。  1-2-1 「学部が行う通信教育」という基本を踏まえたカリキュラムの抜本的な見直しを行うとともに、学生や教育センターへのニーズ調査を行い、通信教育部独自の教育体制整備を進める。
<b>(2) 学生の受入れに関する目標</b> 1 多様なニーズに応じて、幅広く学生を受け入れる。	1-1 通信教育のニーズを踏まえ、社会人及び生涯学習を目指す人々に受け入れられやすい制度やプログラムを企画する。	1-1-1 社会人及び生涯学習を目指す人々がどのような制度やプログラムを希望しているか調査する。
<b>(3) 教育の成果に関する目標</b> 1 高度情報通信社会にふさわしい情報技術と知識及びそれを支える幅広い教養と各種専門分野にまたがる知識を習得した人材を輩出する。	1-1 通信教育の特性を加味した評価方式を検討し、それに基づいた評価を行う。	1-1-1 通信教育の特性を加味した評価方式を検討するため、他大学の実施方法等を調査する。
<b>(4) 教育の内容・方法等に関する目標</b> 1 「情報」を核として、社会が求める人材に適した教育カリキュラムを提供する。  2 ICTを活用して、教育サービスを向上させる。	1-1 社会的ニーズや今後の成長が見込まれる分野を検討し、カリキュラムや履修モデルコースの見直しを行う。  2-1 ICTの利活用について総合的に検討し、実施計画を策定し、実行する。	1-1-1 引き続き、カリキュラム小委員会で、カリキュラムの検討を行う。  2-1-1 「通信教育部ICT化計画」等により、サービスやシステムのICT化を図る。
<b>(5) 教育の環境と支援に関する目標</b> 1 教育センターや通学課程との連携を図り、通信教育を円滑に実施する体制を構築する。	1-1 教育センターや通学課程との情報共有を密に行うとともに、協働しながら教育を実施する。	1-1-1 引き続き、通学課程との単位互換制度やeラーニングシステムの共同利用の検討を行う。

中期目標	目標を達成するための中期計画(措置)	平成29年度計画
<p>2 通信教育の質の向上を図るとともに、教育設備等の充実を目指す。</p> <p>3 学習支援体制と相談窓口を充実させる。</p> <p>4 学生の利便性の向上と、各種制度の充実を図る。</p> <p>5 教育環境改善のための調査を行い、通信教育の改善に役立てる。</p>	<p>2-1 通信教育担当の人員や制度、教育設備等の充実計画をし、実行する。</p> <p>3-1 学習支援の仕組みを充実させるとともに、担当する教職員の支援に関するスキルアップを図る。</p> <p>4-1 手続きのICT化を進めるとともに、学生を第一に考えた制度になるよう常に見直しを図る。</p> <p>5-1 学生の意見を集め、それらを反映させる仕組みや体制を整える。</p>	<p>1-1-2 学生委員会や学生サポートセンター事務室と連携し、円滑な運用を目指す。</p> <p>1-1-3 教育センターとの学習情報・学生情報の共有について協議を行う。</p> <p>2-1-1 カリキュラムの抜本的な見直しを行う過程で、担当教員の確保、教育制度や必要な設備についての検討を行う。</p> <p>2-1-2 引き続き、レポート添削等の通信教育に必要な教育スキルの向上に関する検討を行う。</p> <p>3-1-1 サービスやシステムの更なるICT化により、学習支援の仕組みの充実を図る。</p> <p>3-1-2 引き続き、窓口対応職員のスキルアップのための研修会参加を企画する。</p> <p>4-1-1 サービスやシステムのICT化の一環として、学費納入、証明書発行等のインターネットでの手続について具体化していく。</p> <p>5-1-1 引き続き、授業評価アンケート及び通信教育部全般に関するアンケートを定期的実施するとともに、集計・分析手順の検討を行う。</p>

**Ⅲ 研究及び社会連携に関する目標**

<p><b>(1) 研究及び社会連携に関する目標</b></p> <p>1 教員の研究活動の活性化のために支援体制を整え、研究水準の向上を図る。</p>	<p>1-1 研究活動を適正に評価し、その結果を研究活動の質の向上に結びつける体制を確立する。</p> <p>1-2 大学が重点的に取り組む分野では教育と知識と情報、食と健康と情報、宇宙と環境と情報の3分野における独創的・先進的な研究を戦略的に推進し、研究水準の向上を図る。</p>	<p>1-1-1 現評価システムによる平成28年度の運用状況を踏まえて、現行の評価システムの実施方法、内容について点検し、必要に応じて見直しを行い、研究活動を適正に評価し、その結果を研究活動の質の向上に結びつける体制を確立する。</p> <p>1-2-1 重点分野の研究の高度化を図るため、引き続き、研究費の支援、海外からの研究者の受け入れを進めていく。</p> <p><b>【重点分野「教育と知識と情報」の取組み】</b></p> <p>「教育と知識と情報」の核となる「eラーニング推進センター」では、次の活動を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「主体的学びに導くための実行プラン2017」を策定して、ICTによる教育イノベーションを推進する。</li> <li>・POLITEに関しては、学習者適応型eラーニング化科目を検討し、教材開発に着手する。また、eラーニングコンテンツの多言語化を進めるとともに、シリアスゲームWGやアクティブラーニング小委員会等の成果を実装し、普及に努める。</li> <li>・CANVASは、UNESCOのICT Competency Framework for Teachers等を参考に、ICTを使った効果的な授業をするために求められる教員のコンピテンシーに関する研究を始める。</li> <li>・主体的学びの世界は、先輩の職場見学、教員の専門分野探索、職業体験シリアスゲーム等のコンテンツを充実させるとともに、利用の促進を図る。</li> <li>・スマートキャンパスの実現を目指し、IoTの学内での利用方法について検討する。</li> </ul> <p><b>【重点分野「食と健康と情報」の取組み】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食の臨床試験から得られる健康情報基盤を産学官連携で構築し、地域住民の健康寿命の延伸に貢献する体制作りを進める。</li> <li>・食生活と遺伝子背景に関する情報を基盤にした生活習慣病(悪性腫瘍を含む)の発症について検討する国際コンソーシアムを構築する。そのための国際会議の開催に向けて準備を進める。</li> <li>・地域に根差した「食と健康と情報」をテーマにした研究機関への発展を検討する。</li> </ul>
--	---	--



中期目標	目標を達成するための中期計画(措置)	平成29年度計画
	<p>1-3 教員の研究活動の維持向上のため、リサーチアドバイザー制度を積極的に活用する。</p> <p>1-4 積極的に各種学会、講演会を招致する。</p> <p>1-5 研究グループに研究プロジェクトの立案・実施を促し、プロジェクト研究を推進する。</p> <p>1-6 若手研究者の参画する研究を積極的に推進する。</p> <p>1-7 国内外への中長期研修制度(サバティカル)の導入を図り、国際会議参加への旅費等の支援体制を整える。</p> <p>1-8 科研費に関する講習会等を実施し、科学研究費補助金の申請を促し、採択件数向上を図る。</p> <p>1-9 学術研究助成金の申請件数の向上を図る。</p>	<p><b>【重点分野「宇宙と環境と情報」の取組み】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・衛星・探査機データサーバーにデータを導入し、講義や実習で利用可能な状態にする。</li> <li>・高度なセキュリティを利用して、学外からのアクセスを可能とする。</li> <li>・iPad等を用いてシステムを利用した出前授業や公開講座を実施する。</li> <li>・産学連携により衛星・探査機データサーバを利用した「海洋状況監視システム」を完成させる。</li> </ul> <p>1-2-2 各学科、各委員会及び各センターに対して寄附金の使用希望を募集し、応募のあった実施計画に対して、寄附金額に対応した事業の審査、選定を行う。(再掲)</p> <p><b>【教育研究戦略委員会】【国際交流委員会】</b></p> <p>1-2-3 国際研究活動を強化し、海外大学との共同プロジェクトを軌道に乗せるとともに、留学生獲得の方策を検討する。特に、タイ王国ラジャマンガラ工科大学タンヤブリ校と中国大連東軟信息学院からは、ダブルディグリーの制度を利用して、優秀な留学生の受入れを行う。</p> <p>1-3-1 教員の研究活動の向上のため、「研究推進専門委員会」の下で、これまでの実績を踏まえて、リサーチアドバイザー制度の具体的な活用策を検討し、実施する。</p> <p>1-4-1 財政的な支援等、学会、講演会の招致する方策を策定し、実施する。</p> <p>1-5-1 学内における学部・学科間の交流を促進し、連携や共同研究を推進するための方策を策定し、実施する。</p> <p>1-5-2 本学の特色ある研究について、推進・支援する方策を策定し、実施する。</p> <p>1-6-1 若手研究者の参画する研究を推進するため「研究推進専門委員会」の下で、次の検討を進め、実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・若手研究者を対象とした研究費の支援</li> <li>・若手研究者間の交流の場の設定、若手研究者によるグループ研究の実施</li> <li>・その他若手研究者が参画する研究の推進方策</li> </ul> <p>1-6-2 各学科、各委員会及び各センターに対して寄附金の使用希望を募集し、応募のあった実施計画に対して、寄附金額に対応した事業の審査、選定を行う。(再掲)</p> <p>1-7-1 現行の国内外研修制度についての見直しを進め、実施する。</p> <p>1-8-1 「研究推進専門委員会」の下で、科研費に関する講習会を企画する等、科学研究費補助金の申請を促し、採択件数向上に向けた取り組みを進める。</p> <p>1-9-1 教職員ポータルサイトに研究助成金の募集情報を蓄積した閲覧可能なサイトを作成し、募集情報を提供していく。</p> <p>1-9-2 平成28年度実施した研究活動に係る設備の実態調査を踏まえ、研究設備の整備を進める。</p>
2 研究の学内環境の整備・改善を図る。	2-1 電子ジャーナル及び学術情報データベースの整備・充実と、ネットワークを介した各種図書館サービスの充実を図る。	<p>2-1-1 電子ジャーナル及び学術情報データベースについて、本学の学科構成に見合った整備・充実のため、継続して検討する。</p> <p>2-1-2 ネットワークを介した各種図書館サービスについて、本学の特色を活かした制度・運用を検討する。</p>

中期目標	目標を達成するための中期計画(措置)	平成29年度計画
	2-2 研究活動の促進に向けた研究環境・施設を整備するとともに、重点分野を始め研究の活性化に必要な設備を導入する。	2-2-1 教育研究戦略委員会の下に設置した研究推進専門委員会において、研究活動の推進と支援策について検討する。
<p><b>(2) 地域貢献・産学連携に関する目標</b></p> <p>1 教育研究成果を広く社会に還元し、企業・地域社会等と幅広く連携する取り組みを拡大する。</p> <p>2 ICTを通じた産学連携研究を推進し、地域の要請に応じる。</p> <p>3 教育面での社会及び地域との連携を強化する。</p> <p>4 研究面での社会及び地域との連携を強化する。</p> <p>5 図書館サービスを学外に開放し地域住民への生涯学習活動支援に努める。</p>	<p>1-1 産業界、官公庁、金融界との包括的連携を進展させ、人的交流を促進し、大学・地域双方の活性化を進める。</p> <p>1-2 各種公開講座、研究会、教員免許の更新時講習を開催するとともに、企業・行政との連携を強め、教育・研究の成果を社会に広く還元する。</p> <p>1-3 本学の教育研究等の諸活動に関する情報を積極的に社会へ発信する。</p> <p>1-4 各種審議会・研究会等へ積極的に参画する。</p> <p>2-1 地域社会との連携及び産学連携活動として展開する研究活動等の支援体制・評価体制を整備・実施することに努める。</p> <p>2-2 地域社会において学習ニーズの高い分野について、大学が組織として地域と連携しながら、教育資源の提供を行う。</p> <p>3-1 教育における地域連携を実施、推進する。</p> <p>4-1 研究における地域連携を実施、推進する。</p> <p>5-1 地域情報資料コーナーの充実や近隣公共図書館との交流を促進し、学外利用者の利用を促進する。</p>	<p>1-1-1 学生地域定着推進広域連携協議会等の活動を通じて、引き続き、学外との人的交流や大学・地域双方の活性化を図る。</p> <p>1-2-1 各学科、各委員会及び各センターに対して寄附金の使用希望を募集し、応募のあった実施計画に対して、寄附金額に対応した事業の審査、選定を行う。(再掲)</p> <p>1-2-2 本学の有する教育研究成果のシーズを継続的に発信し、各種公開講座や研究会を通じて、広く社会に還元する。</p> <p>1-3-1 ホームページやパンフレットを通じて、引き続き、本学の教育研究成果や諸活動の情報を積極的に社会へ発信する。</p> <p><b>【経営情報学部システム情報学科】</b></p> <p>1-4-1 外部コンテスト、各種学会の研究会等の情報をゼミ指導教員を通じて、学生に伝わるような仕組みを検討する。</p> <p><b>【情報メディア学部情報メディア学科】</b></p> <p>1-4-2 各種審議会・研究会へ各教員が参画できるように促し、代講やチームティーチング等に対応できる体制を検討する。</p> <p>2-1-1 地域連携・産学連携センター運営委員会を開催し、さらなる支援体制・評価体制の整備・充実について検討する。</p> <p>2-2-1 江別市や教育委員会等と連携して公開講座や出前授業を行う。</p> <p>3-1-1 地域の企業や各種団体でのインターンシップやボランティア、地域連携イベント等を推進する。</p> <p>4-1-1 地域に対する相談手段(直通電話回線等)を設置し、共同研究等の地域連携をより一層推進する。</p> <p>5-1-1 地域資料を継続して収集することにより、地域情報資料コーナーの充実を図る。</p> <p>5-1-2 近隣公共図書館との交流については、引き続き図書委員会で検討する。</p> <p>5-1-3 平成28年度の学生コンテストの結果を受けて、地域住民サービス充実を検討し、学外利用者の利用を促進する。</p>
<p><b>(3) 国際交流に関する目標</b></p> <p>1 海外大学との提携拡大と国際交流・海外研修・海外留学プログラムを拡充する。</p>	<p>1-1 協定締結校等との交流状況を調査・評価し、評価結果に応じ、取組の強化や協定の見直しを行う。</p> <p>1-2 本学の一層の国際化を目指し、大学間交流、学生交流、研究者交流を促進する。</p>	<p>1-1-1 協定締結校等との交流状況を調査・評価し、評価結果に応じ、取組の強化や協定の見直しを行う。</p> <p>1-2-1 協定締結校との交流状況を調査・評価した上で、大学間交流、学生交流、研究者交流の促進を検討する。</p>

中期目標	目標を達成するための中期計画(措置)	平成29年度計画
2 留学生の受入れを促進する。	2-1 本学の留学情報の発信を強化して優秀な留学生の受入れに努める。 ・留学生の確保(国際化戦略) 現在1.5%→5%(+12名) このため、奨学金の充実を図る。 ・英語による授業の実施	2-1-1 留学生受入れのための教育プログラムの実質化を図る。 2-1-2 海外の大学との交流の活性化、協定の実質化を図る。 2-1-3 留学生の確保戦略に係る奨学金の充実化方策について検討する。 2-1-4 秋から受入れるダブルディグリープログラムの学生向けの授業を英語で実施するために、その具体的な準備を進める。 2-1-5 タイ王国ラジャマンガラ工科大学タンヤブリ校から提供を受けて校内に設置した「RMUTT・HIU国際交流オフィス」を活用し、東南アジア地域からの留学生の確保を引き続き検討する。 2-1-6 インターネット等を活用し、留学情報の発信を強化する。
3 学生及び教員による国際交流を推進し、充実させる。	3-1 海外での語学研修の充実と、日本の文化等に関心のある外国人留学生の受け入れにより、学生の異文化への関心を高めることを図る。  3-2 単位互換等による交換留学制度を整備し、学生の国際交流の育成を図る。  3-3 外国人留学生の日本語能力の向上を支援する体制の充実を図る。	3-1-1 海外事情の実施内容について点検し、必要があれば見直しを行う。 3-1-2 語学研修として海外事情(米国編)、海外事情(中国編)、大連東軟信息学院短期留学プログラム、マレーシアUCSI大学語学研修を引き続き実施する。 3-1-3 日本の文化等に関心のある外国人留学生の受入れについて検討する。 3-1-4 タイ王国ラジャマンガラ工科大学タンヤブリ校(RMUTT)との国際交流を推進するため「国際コラボレーション」授業(2単位)を引き続き実施する。 3-1-5 財団法人北海道青少年科学文化財団が主催している「サッポロ・インターナショナル・ナイト(国際的な学生討論会)」への学生参加を支援する。 3-1-6 海外事情(米国編)、海外事情(中国編)、RMUTTとの国際コラボレーション授業、大連東軟信息学院短期留学プログラム、マレーシアUCSI大学語学研修等の活動を小冊子「国際交流レポート」にまとめ、製本化して発行する。また、それらを大学のホームページ上で公開する。 3-2-1 単位互換等による交換留学制度について検討する。 3-2-2 協定校との学生による国際交流を検討する。 3-3-1 新入学の留学生を対象とした受入れ直後の新学期前の期間において、日本語特別講座を実施する。(再掲) 3-3-2 在籍している外国人留学生を対象に日本語能力試験JLPT2級の受験対策講座を実施する。 3-3-3 全学教務・FD委員会WGと協力して、入学前の留学生、在学中の留学生にiPadを活用したアクティブ日本語学習教材を開発して提供する。
4 世界に本学の教育研究の特徴を知らしめるように英語等での情報発信を充実させる。	4-1 インターネットを活用し、特色あるカリキュラムや教育システムを海外に知らしめるために英語等によるコンテンツの企画、作成を図る。	4-1-1 3つの研究教育重点分野に関する実績等を、インターネットを活用して英語で広く海外に発信する。

中期目標	目標を達成するための中期計画(措置)	平成29年度計画
5 国際的に活躍できる人材を育成する。	<p>4-2 国際交流・留学生受入れに関する情報を容易に取得できるように、Webページを整備する。</p> <p>5-1 学内での語学力や異文化理解の強化を目的としたプログラムを実施する。</p> <p>5-2 海外(東南アジア等)へのインターンシップを検討する。</p> <p>5-3 英語による教育科目を増加させ、留学生・日本人学生の国際性を涵養する。(再掲)</p>	<p>4-2-1 国際交流・留学生受入れに関する情報を整備し、英語で紹介するコンテンツを作成し、インターネットを活用して海外に発信する。</p> <p>5-1-1 大学祭やその他において交流イベントを企画し、外国人留学生と日本人学生が互いの言語でコミュニケーションを取りながら異文化交流できるプログラムを実施する。</p> <p>5-2-1 海外(東南アジア等)へのインターンシップ受入れ企業等の開拓を行う。</p> <p>【全学教務・FD委員会】</p> <p>5-3-1 授業全体を英語で実施する科目、一部を英語で実施する科目というように、タイプを分けつつ、英語による教育科目を増やすための検討を続けていく。一部を英語で行う科目は、先行的に実施していけるように努める。</p> <p>【国際交流委員会】</p> <p>5-3-2 ダブルディグリープログラムを実施する宇宙情報システムコースの授業の英語化を行う。</p>
<b>IV 管理運営に関する目標</b>		
<b>(1) 管理運営体制の改善に関する目標</b>		
<p>1 建学の理念に基づき、大学の進むべき方向を戦略的にまとめ、全学的視野に立った機動的な大学運営の遂行に努める。</p> <p>2 情報の一元管理を行う。</p> <p>3 ガバナンス改革を充実する。</p>	<p>1-1 情報を核とした4つの機能を果たすために、理事会、評議員会、教育研究評議会、教授会等が協調し、教育・研究・社会貢献に関する基本戦略を定める。</p> <p>1-2 最適な資源配分と機動的な運営体制の確立を図る。</p> <p>2-1 教育関連のシステム、ポータルサイト、学生管理システム等のシステム統合を図り、情報の一元化を行う。</p> <p>3-1 学長のリーダーシップ、学長を補佐する体制等、ガバナンス改革を充実する。</p>	<p>1-1-1 学長のリーダーシップの下、機動的、効率的かつ外部の意見を活かした戦略的な組織運営を図っていく。</p> <p>1-1-2 HIU Vision 2020及び第2期中期目標・中期計画の進捗状況を踏まえて、教育研究、社会貢献に関する基本戦略を検討していく。</p> <p>1-2-1 最適な資源配分と機動的な運営体制確立のため、予算確保部門と実施部門の見直しを継続的に進め、予算確保とそれに伴う活動の一致を図るよう、運営体制の見直し、変更を図る。</p> <p>【大学事務局】</p> <p>2-1-1 IRを進めるに当たっての目標設定と目標を達成するための具体的な取り組みについて検討し、アクションプランを取りまとめる。</p> <p>【情報センター事務局】【大学事務局】</p> <p>2-1-2 平成28年度中に対応できない部分の改修を行い、学園総合情報システムの情報提供を他システムに反映できるようにする。</p> <p>3-1-1 平成27年度、平成28年度の教育研究評議会、全学教授会、各学部教授会、教育研究戦略委員会の審議事項等を整理し、次の点検を進め、必要に応じて見直しを行い、改善する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学長がリーダーシップを発揮できる業務執行体制</li> <li>・内部規程等を含めたガバナンス改革の実施</li> <li>・スピーディな大学運営及び迅速な意思決定がなされているか。</li> </ul>
<b>(2) 教育研究組織の見直しに関する目標</b>		
1 人材育成に関する社会のニーズを的確に反映し、高度な職業人養成を中心とした実践的な教育研究を行う。	<p>1-1 時代に即した改組・改編の提言を行うための柔軟な組織作りを検討する。</p> <p>1-2 カリキュラム及びキャリア教育について定期的に見直す。</p>	<p>1-1-1 学長のリーダーシップの下、教育研究戦略委員会において大学運営に関する諸活動の情報収集・分析を行い、戦略的運営を図っていく。</p> <p>1-2-1 旧カリキュラム、平成29年度カリキュラムについて、キャリア教育の配置の妥当性について確認し、必要があれば見直しを検討する。</p>

中期目標	目標を達成するための中期計画(措置)	平成29年度計画
<p>2 適正な学部、学科、専攻、コースの構成と定員がそれぞれの教育研究の目的の実現に相応しいかどうかを定期的に確認する。</p> <p>3 通信教育における教育研究拠点として相応しい教育研究活動を支援する体制の拡充及び活性化に努める。</p> <p>4 大学院の教育研究体制の整備・充実する。高度教育研究機能と大学院の充実を図り、博士課程への道筋を立てる。</p>	<p>2-1 適正な学部、学科、専攻、コースの構成と定員がそれぞれの教育研究の目的の実現に相応しいかどうかを定期的に確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現行制度、システムの維持・改善</li> <li>・学部・学科の入学定員と入学者数のバランスの調整を図る。</li> <li>・医療情報学部医療情報学科臨床工学分野の設置(再掲)</li> </ul> <p>2-2 女性教員の増員を図る。</p> <p>3-1 通信教育を生涯教育及び地方創生の学びの場として位置づけるための教育体制作りを行う。</p> <p>4-1 修士課程の充実を図り、博士課程への道筋を立てる。</p>	<p>平成29年度計画</p> <p>2-1-1 医療情報学部の平成29年度の学生の入学状況から、改組改編(専攻の入学定員設定)及び設定した入学定員が適正であったかを検証する。(再掲)</p> <p>2-1-2 情報メディア学部情報メディア学科の平成29年度の学生の入学状況から、専攻別入学定員の廃止及び設定した学科としての入学定員が適正であったかを検証する。(再掲)</p> <p>2-1-3 平成29年4月の経営情報学部、医療情報学部、情報メディア学部の専攻、コースの改編に向けて進めてきた準備が、計画どおり実行されているかを点検し、必要に応じて見直し、改善する。(再掲)</p> <p>【医療情報学部医療情報学科メディカルヘルス専攻】</p> <p>2-1-4 教育内容に合致した専攻名への変更、社会ニーズに合ったカリキュラムの編成等、柔軟に対応できる体制を確立する。</p> <p>【医療情報学部医療情報学科臨床工学専攻】</p> <p>2-1-5 専門教員の補充と北海道臨床工学技師会との連携強化により、学生の確保と国家試験への対策に備える。</p> <p>2-1-6 平成29年4月の学部・学科の改組改編後の学生の入学状況から、設定した入学定員が適正であったかを検証する。(再掲)</p> <p>2-1-7 平成29年4月に設置した臨床工学専攻の学生の入学状況から、設定した入学定員が適正であったかを検証する。また、臨床工学専攻の設置に向けて進めてきた準備が、計画どおり実行されているかを点検し、必要に応じて見直し、改善する。(再掲)</p> <p>2-2-1 各学科等において教員採用人事を進めるに当たっては、女性教員の採用を考慮する。</p> <p>2-2-2 女性教員が仕事と家庭が両立できる働きやすい環境づくりを検討する。</p> <p>3-1-1 遠隔教育の方法や仕組みについて調査・研究を行い、生涯教育及び地方創生の学びの場のツールとしての通信教育の機能の検討を行う。</p> <p>【研究科委員会】【教育研究戦略委員会】</p> <p>4-1-1 経営情報学研究科の充実を図るとともに、新たな研究科(修士課程)の設置に向けて検討を進める。(再掲)</p>
<p><b>(3) 組織倫理・危機管理に関する目標</b></p> <p>1 社会的な公器とされる大学により一層の社会的ルールの遵守が求められるなかで、組織倫理の確立とコンプライアンスを推進し、全学的な安全管理体制を構築する。</p> <p>2 セキュリティポリシーの実質化を行う。</p>	<p>1-1 目標を達成するための啓蒙活動により教職員のモラル向上への活動を進める。</p> <p>1-2 危機管理マニュアルを整備し、組織倫理の確立と危機管理能力を向上させる。</p> <p>1-3 定期的に危機管理のための訓練及び研修等を実施するとともに、新たな危機管理に対応するマニュアルの作成・改訂を進める。</p> <p>2-1 セキュリティポリシーへのつとり、各部門の責任者を明確にし、セキュリティの維持を図るとともに、講習会を実施する。</p>	<p>1-1-1 身近で具体的なものをテーマとしたコンプライアンス啓蒙活動を推進する。</p> <p>1-2-1 危機管理マニュアルの整備を進め、個別のマニュアルを完成させる。</p> <p>1-3-1 SD研修の一項目として実施出来るように計画をする。</p> <p>2-1-1 個別運用マニュアルの完成を目指す。</p>

中期目標	目標を達成するための中期計画(措置)	平成29年度計画
3 教育研究環境の安全・衛生管理対策と安全教育を充実する。	2-2 サイバー攻撃に対する防御を検討し、実施する。  3-1 国の感染症対策の動向を踏まえ、新型インフルエンザ等新たな感染症に、近隣の自治体と連携しつつ迅速かつ適切に対応する。  3-2 安全管理意識の向上のために、基礎的な講習会を実施する。	2-2-1 常に最新の情報を取得し、大学に対する脅威に対応できるよう検討・実施していく。  3-1-1 感染症の動向を常に把握することに努めるとともに、近隣地区で発生した場合には、学生教職員に注意を促す。また、本学で発生した場合には、対策マニュアルを基に迅速に対応する。  3-2-1 安全管理意識向上のための講習会として何が必要かを検討するとともに、講習会を開催する。健康診断及びストレスチェックの受診率は、100%を目指す。
<b>(4) 教職員人事と適正配置に関する目標</b> 1 大学としての社会的使命を果たすために、教員情報の開示とともに、教職員の能力が最大限に発揮できるような適正かつ弾力的な人事管理に努める。	1-1 教育研究機能や学生支援機能を充実させるため、教職員の適正な人事考課及び人事考課に基づく処遇を検討し、効果的な人事制度を確立する。	1-1-1 教員の人事考課制度及び人事考課に基づく処遇を検討する。  1-1-2 教員の任期制について検討する。  【法人本部】 1-1-3 事務職員の人事考課制度(昇給考課、期末勤勉考課、昇格・昇級考課)の見直しを行い、変更する部分については規程等の改訂を実施する。改定案確定後は、試行運用を行い、改善点の洗い出しを行う。
<b>(5) 事務等の効率化・合理化に関する目標</b> 1 私立大学法人として適切な事務組織を確立し、効率化・合理化を積極的に進める。  2 業務の合理化や事務組織の機能充実について検討し、改善を図る。  3 事務の多様化・複雑化に対応した職員研修の充実を図る。	1-1 限られた資源の有効活用及び効率的な事務の実行実現に向けて、業務全般の権限と責任の所在を明確にする。  1-2 事務処理の在り方、事務職員の適正な配置を行う。  2-1 業務を恒常的に点検し、簡素化、効率化による業務の合理化の改善を図るとともに、機能的・機動的な事務組織となるよう事務組織の機能充実について検討する。  3-1 事務の多様化・複雑化に対応した職員研修の実施等推進するとともに、各種業務に対応した学外研修への参加を促す。	1-1-1 事務組織見直しに伴う、各組織の権限と責任を明確にし、関連規程の洗い出し、変更を継続して実施する。  1-2-1 各部署の行事予定をもとに、事務職員の適正な配置について、役員による検討を実施し、組織に反映させる。  2-1-1 定型業務について業務毎のマニュアル作りに着手する。作成されているマニュアルについては、見直しを行う。  3-1-1 学外研修促進のため、学外研修情報連携体制を構築する。  3-1-2 SDの義務化(平成29年4月1日施行)に伴い、SDの計画実施を担当する部署を設置し、SDを計画的に進めていく。
<b>(6) 広報活動に関する目標</b> 1 大学における情報公開の義務化を受け、受験生中心の広報活動だけでなく、本学の教育研究の現状や成果について広く社会に広報する活動を強力に推し進める。	1-1 インターネットその他の媒体を効果的に利用して積極的な情報公開を行うために、教員組織、事務組織が一体となって情報公開を進めるためのシステム作りを行う。  1-2 大学ポータルサイトのメンテナンス体制を整備し、積極的な広報を推進する。	1-1-1 大学ホームページの見直しを定期的実施して、デザイン変更等を予算内で実施する。  1-2-1 大学ポータルサイトメンテナンス体制の継続的運用を行うとともに、運用中に改善点があれば随時、改善を行っていく。
<b>(7) 歴史資料の収集・整備に関する目標</b>	1-1 平成元年の建学から25年を経過し、北海道情報大学の歴史資料としてのデータ、情報等を収集し、デジタル化等整備することにより、歴史資料の散逸を防止する。	1-1-1 学内報・パンフレット等の紙媒体で保存されている歴史的資料をデジタル化し、専用のハードディスクに保存する作業を実施する。
<b>V 財務に関する目標</b>		
<b>(1) 資産の運用管理に関する目標</b>		

中期目標	目標を達成するための中期計画(措置)	平成29年度計画
1 大学が保有する資産の点検・評価をもとに、資産の有効活用を図る。	1-1 資産の点検・評価を行う公正な組織を構築し、それぞれの特性に応じた効率的な運用を行うとともに、十分に活用されていない資産を洗い出し、それら資産の活用と運用の体制を構築する。	1-1-1 資産の点検・評価の一つとして、金融資産ポートフォリオの評価を行い、必要であれば見直しを行う。
<b>(2) 外部研究資金その他自己収入の増加に関する目標</b> 1 質の高い研究を推進するために、科学研究費補助金やその他の競争的研究資金等の獲得に向けて積極的に取り組む。  2 大学財政の健全化のために欠かせない競争的研究資金、受託研究費、寄附金等外部資金の一層の獲得を図るとともに、自己収入の増加に努める。	1-1 科学研究助成金やその他の競争的資金等の獲得に向けて積極的に取り組む。  2-1 自律的な大学運営を行うために自己収入を増加させるために、外部資金導入に関する情報の収集と公開を進め、積極的な獲得活動を展開する。 ・外部研究費、寄附金の確保  2-2 科学研究費補助金等の競争的研究資金への申請を奨励し、公募情報を積極的に各教員へ提供するとともに採択に向けての助言・指導等の取組みを実施する等、申請に係る支援を組織的に強化する。  2-3 イノベーションの創出を推進するため、研究支援の取組を強化するとともに、公募型競争的資金等獲得のための施策を実施する。	1-1-1 「研究推進専門委員会」の下で、科研費に関する講習会を企画する等、リサーチアドバイザーの活用も含め、科研費の応募件数と採択率の向上に取り組む。また、教職員ポータルサイトに研究助成金の募集情報を蓄積した閲覧可能なサイトを作成し、募集情報を提供していく。  1-1-2 教員による起業の推進、学外機関との共同研究の推進の方策を策定する。  1-1-3 「研究推進専門委員会」の下で、平成29年度文部科学省「私立大学研究ブランディング事業」等の獲得に取り組む。  2-1-1 外部資金導入のための環境整備と獲得のための情報提供を積極的に進める。  <b>【教育研究振興事業委員会】</b> 2-1-2 寄附金確保のため、教育研究振興事業委員会にて、既存寄附者(大学教職員、同窓生、eDCグループ社員)以外へのPR方式の検討を行い、PRを行う。  2-2-1 「研究推進専門委員会」の下で、科研費に関する講習会を企画する等、リサーチアドバイザーの活用も含め、科研費の応募件数と採択率の向上に取り組む。また、教職員ポータルサイトに研究助成金の募集情報を蓄積した閲覧可能なサイトを作成し、募集情報を提供していく。(再掲)  2-3-1 「研究推進専門委員会」の下で、平成29年度文部科学省「私立大学研究ブランディング事業」等の獲得に取り組む。(再掲)  2-3-2 教職員ポータルサイトに研究助成金の募集情報を蓄積した閲覧可能なサイトを作成し、募集情報を提供していく。(再掲)
<b>(3) 経費の抑制に関する目標</b> 1 管理運営費の一層の抑制に努める。	1-1 管理的経費の実態把握と効率的執行計画の検討	1-1-1 業務別、用途別管理経費の分析を行い、支出項目を見直し、経費抑制に努める。
<b>(4) 施設設備の整備・活用に関する目標</b> 1 良好な教育研究環境を維持するため、施設・設備の計画的な整備及び維持管理を行う。  2 キャンパス環境のより一層の整備・保全を行うとともに、設備の活用に努める。	1-1 適切な整備及び維持管理を計画的に実施する。  2-1 計画的な維持管理を行うための組織的な仕組みを構築し、きれいで清潔な環境の整備とともに、安全性・信頼性を基本に、教育・研究体制の変化に対応する柔軟で計画的な施設整備を行う。  2-2 女子学生に配慮した設備、環境を整備する。	1-1-1 第Ⅱ期保全計画(平成28年度～平成32年度)のうち、平成29年度保全工事を実施する。工事優先度等の詳細項目については、保全計画実施前に、大学、法人合同の年度別保全計画実施項目調整会議を実施して、柔軟な施設整備を実施する。(再掲)  <b>【法人本部】</b> 2-1-1 平成29年度保全工事の工事優先度等の詳細項目について、保全計画実施前に、大学、法人合同の保全計画実施項目調整会議を実施して、柔軟な施設整備を実施する。  2-2-1 女子学生に配慮した設備・環境の具体的な取り組みについて検討するとともに、可否の判断と実施時期についても検討する。
<b>VI 自己点検評価、外部評価及び情報提供</b>		
<b>(1) 評価の充実に関する目標</b>		

中期目標	目標を達成するための中期計画(措置)	平成29年度計画
1 原則として5年毎に中期目標・中期計画を定め、毎年度これに基づく年度計画を定める。	1-1 平成28年度から5年間の中期目標・中期計画に基づく学校運営及び教育研究を着実に進めるとともに、平成32年度に次期中期目標・中期計画を作成する。  1-2 各年度ごとに点検・評価項目を定め、実施結果を公表し、教育研究の活性化等に反映する。	1-1-1 平成29年度の年度計画の達成状況を踏まえ、平成30年度の計画を策定する。  1-2-1 各年度ごと自己点検評価項目を定め、自己点検評価を実施するとともに、PDCAサイクルを有効に機能させる。
2 中期目標・中期計画及び年度計画に対する達成状況の自己点検評価を実施し、定期的に自己点検評価書の作成・公表を行う。	2-1 毎年度、中期目標・中期計画及び年度計画に対する達成状況の自己点検評価を実施する。  2-2 原則として2年毎に、自己点検評価報告書を作成し、公表する。	2-1-1 平成29年度計画の達成状況に関して自己点検評価を実施し、未達成の計画の取扱いを検討する。  (平成31年度に、平成30年度版自己点検評価報告書を作成し、公表する。)
3 自己点検評価書に基づき、本学独自の外部評価を実施し、評価結果を公表する。	3-1 自己点検評価報告書に基づく外部評価を実施する。	3-1-1 平成33年度までに全般について自己点検評価を行い、その妥当性について、本学が設置する外部評価委員会で評価するための計画を検討する。
4 機関別認証評価は、7年以内に、継続的な自己点検評価と外部評価に基づいて受審する。	4-1 平成28年度に、大学機関別認証評価を受審する。  4-2 平成35年度に、大学機関別認証評価を受審する。	4-1-1 平成28年度に受審した大学機関別認証評価の実地調査時に評価員から伺った提案事項や評価報告書における「改善を要する点」、「参考意見」等について、適切かつ迅速に取り組む。  4-2-1 次回(平成35年度)受審に備え、平成28年度に受審した評価結果までの一連資料等を整理・保管する。また、平成30年4月から第3サイクルとなる大学機関別認証評価は、内部質保証を重視した評価となるため、3つのポリシーを起点とする内部質保証システム(PDCAサイクル)を各学科単位で確立し、教育に関する内部質保証を確立していく。
5 自己点検・評価結果及び第三者評価結果を踏まえて、教育研究の質の向上及び業務運営等の改善を図る。	5-1 評価結果に対する改善措置について、「点検評価委員会」等において検討して実施する。	5-1-1 認証評価フォローアップWGでの検討結果、平成28年度に受審した大学機関別認証評価結果及び実地調査時に評価員から伺った提案事項を踏まえて、改善措置等について検討し、実施する。
6 HIU Vision 2020の戦略及び中期目標・中期計画を着実に実行するための評価システムを構築する。	6-1 HIU Vision 2020及び中期目標・中期計画の戦略的マネジメントツール、実行支援・評価ツールとしてバランス・スコアカード(BSC)の導入について検討・実施する。	6-1-1 バランス・スコアカード(BSC)の導入に当たっての手順について検討し、策定する。(再掲)
<b>(2) 情報公開等の推進に関する目標</b>		
1 開示が義務化された教育情報及びその他の教育情報について公表を推進する。	1-1 教育情報の公表を着実に推進する。	1-1-1 大学のイメージを社会に浸透させるため、継続して情報公開・情報発信に努める。  1-1-2 本学に関する情報を積極的に発信するための方策について検討する。  1-1-3 大学広報の統一的ビジョンの策定について検討する。  1-1-4 大学ポートレートメンテナンス体制の継続的運用を行うとともに、運用中に改善点があれば随時、改善を行っていく。(再掲)  1-1-5 教員の広報・募集活動等への参加について見直しするとともに、具体的な活動を検討・実施する。
2 財務情報・経営情報の公開を推進する。	2-1 財務情報・経営情報の公開を着実に推進する。	2-1-1 補助金申請における公開情報条件等、最新状況の把握に努め、変更点・改善点の洗い出しを行い、財務情報・経営情報の公開を推進する。



中期目標	目標を達成するための中期計画(措置)	平成29年度計画
<p>3 研究成果や地域連携関係の情報の公表を推進する。</p> <p>4 大学ポートレートによる情報の発信を行う。</p>	<p>3-1 研究成果及び地域連携関係の情報を、積極的に公表する。(再掲)</p> <p>3-2 教員や大学院生等の研究成果及び学生の社会貢献活動の成果に係る情報を収集し、発信するシステムを構築して、本学の教育研究活動の状況を幅広い対象に紹介する取組を行う。</p> <p>4-1 大学ポートレートの更新を行うとともに、積極的な情報発信に努める。</p>	<p>3-1-1 地域連携・産学連携センターのホームページを活用し、平成28年度に行われた学内の研究・教育成果をシーズとして公開するとともに、地域連携関係の情報を継続的に公表する。</p> <p>3-2-1 教員や大学院生等の研究成果及び学生の社会貢献活動の成果に係る情報を引き続き収集し、本学シーズ集の改訂や増補をはじめ、情報発信の機能を強化する。</p> <p>4-1-1 大学ポートレートメンテナンス体制の継続的運用を行うとともに、運用中に改善点があれば随時、改善を行っていく。(再掲)</p>
<b>VII その他の業務運営に関する目標</b>		
<p><b>(1) 法令遵守に関する目標</b></p> <p>1 教職員の法令遵守の意識の向上を図るために、定期的な研修・教育を実施する。</p>	<p>1-1 基本的なルールを理解し、内部統制を有効に機能させるために研修会を開催する。</p> <p>1-2 情報セキュリティ及びコンプライアンスを推進する。</p> <p>1-3 研究費等の不正使用防止について、より効果的・効率的な公的研究費等の運営・管理を行う。</p>	<p>1-1-1 身近で具体的なものをテーマとしたコンプライアンス啓蒙活動を推進する。(再掲)</p> <p>1-2-1 情報セキュリティ委員会及び情報センターで共同して研修会を実施する。</p> <p><b>【会計課】</b> 1-2-2 競争的資金等における研究費のコンプライアンス教育として、コンプライアンス推進責任者が中心となり、研究者や研究業務に従事する教職員等に対して教育を実施する。また、年度内に3回以上のコンプライアンス推進会議を開催し、教育方法等について、計画、実施、評価、改善を行う。</p> <p><b>【会計課】</b> 1-3-1 競争的資金等における研究費の不正使用防止対策として、不正使用防止計画推進室が中心となり、年度内に3回以上の不正使用防止計画推進室会議を開催し、その中で不正使用防止計画を見直す。また、競争的資金監査室とも連携し、研究費の不正使用が発生しづらい環境を醸成していけるよう運営・管理を行う。</p>